

# 令和6年度 社会科実践・研究計画

部 員	○石田 智之、鈴木 聡
-----	-------------

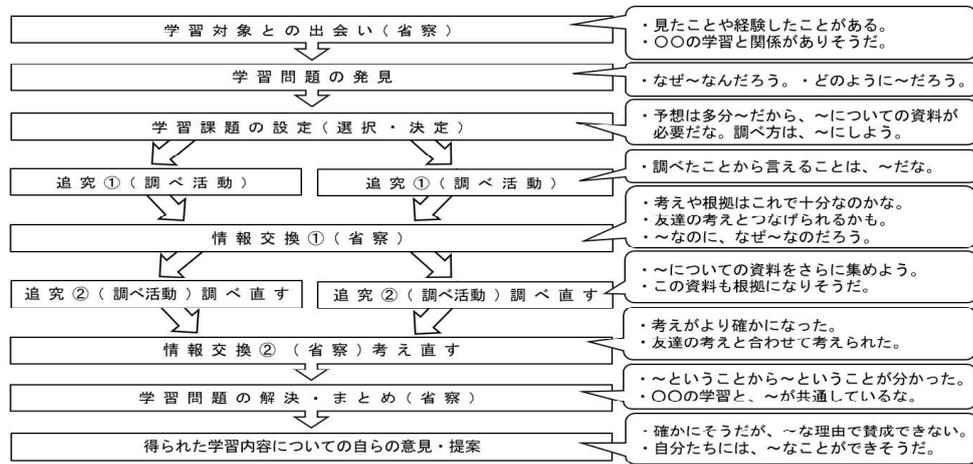
研究テーマ  
**自らの学習状況を見つめながら、主体的・協働的に学習問題の解決に取り組む子どもを育む学び**

## 1 研究テーマについて

社会科では、社会的事象について捉え直すことを通して、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする子どもを育むことが重要である。主体的・協働的に学習問題の解決に取り組むとは、社会的事象の追究を自分ごととし、自分にできることを考えたり、自分の意見を決めたりすることである。そのために、社会的事象について複数の立場や意見を踏まえ、多角的に考察し、広い視野で捉える必要がある。さらに、社会的事象は多様な解釈ができるため、仲間と協働的に問題解決に取り組むことを通して、自らの学習状況を見つめ、自分の考えを発展させようとする姿を引き出すことが期待できる。昨年度までの実践において、資料を基に考えをもち、仲間と情報交換を通して社会的事象について深く考察することができた。しかし、話し合いを踏まえて学習問題についての自分なりのまとめをし、それを吟味して修正したり、その社会的事象についての自らの意見や提案を述べたりする授業デザインを工夫することが課題として残った。そこで今年度は、社会的事象や自らの考えを見つめ直し、まとめを基に自分の意見を表明したり自分なりに提案したりしていく力を高める学習過程にするための手立てを重点として実践・研究を進めていく。社会的事象について広い視野から捉えられるよう、価値ある資料提示や効果的な情報交換の場を設定し、更なる「学びのものさし」の活用を目指す。このことにより、社会的事象を多角的に考察し、広い視野から捉えるために「学びのものさし」が確かになり、よりよい社会を考え主体的に問題解決する姿につながると考える。

社会科で目指す自律した子どもの姿

- ・ 学習問題の解決に向けて見通しをもち、自らの学習状況を見つめ、調べ直したり考え直したりしながら社会的事象を追究している姿。
- ・ 社会的事象の特色や相互の関連、意味について、根拠や理由を明確にしてまとめ、自分の意見や提案を説明している姿。



## 2 研究の重点〈○は具体的な取組の例〉

**自分の考えを練り上げていく力を高めるための学びのデザイン**

- 社会的事象について、多角的に考察し、自分の考えや意見を定めるための手立て
  - ・ 複数の資料や日常生活につながる事象等、価値ある問いを促す資料提示をする。
  - ・ まとめを基に、問題の解決や自らの生活への活用を意識した、自分なりの考えや提案を述べる場面を設定する。
- 必要感のある省察につながる情報交換の場を設定する。
  - ・ 互いの考えのずれや曖昧さを情報交換によって焦点化し、全体で共有する。
  - ・ 収集した資料や考える技法を活用した情報交換とする。